

高齢社会総合研究国際卓越大学院

World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology:
Global Leadership Initiative for Age-Friendly Society
(略称:WINGS-GLAFS)

プログラムの概要	125
プログラム担当教員	129
応募状況と合格者	130
WING-GLAFSの全体像	131
学生の業績	132

プログラムの概要

本プログラムは、日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得と、最前線でのフィールド体験を通して、自らの専門領域研究が、どのように高齢社会の諸課題と接続し得るのかを理解し、自らの研究の社会対応力の強化を図ることを目的としています。このため、直接に高齢者を研究対象とする方に限らず、高齢社会の何らかの課題に高い関心を持ち、その解決に貢献する研究に取り組む方を、対象としています。

■1_プログラム参照専攻(2021年度)

本プログラムは、以下の専攻に所属する学生が履修することができます。

【工学系研究科】	全専攻
【人文社会系研究科】	社会文化研究専攻
【教育学研究科】	総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻
【法学政治学研究科】	総合法政専攻
【総合文化研究科】	広域科学専攻
【農学生命科学研究科】	生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻
【医学系研究科】	社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻、国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻
【新領域創成科学研究科】	先端エネルギー工学専攻、人間環境学専攻、社会文化環境学専攻、国際協力学専攻
【情報理工学系研究科】	知能機械情報学専攻
【学際情報学府】	学際情報学専攻

■2_カリキュラム

本プログラムでは、多領域連携力の涵養のため、ジェロントロジーが様々な学問領域から構成されることを理解する俯瞰力修得のために必修の概論、特定課題解決時に必ず生じる周辺近接領域の存在・特性・連携の仕方を理解する周辺領域理解力修得のために選択必修の特論、具体の特定課題を実社会の中で解くために必要な社会規範や経済の理解、現場の人間関係への対応、社会に対する説得力あるプレゼン能力等によって構成される社会接続力修得のために選択必修の実習を、それぞれ概論、特論、実習という形で採り入れる。さらに、年に2回の全体発表会を設け、履修生と関連教員全員がそれぞれの研究手法を学び合う場を提供する。

【概論(座学)】 俯瞰力の修得

(必修/2科目4単位履修)

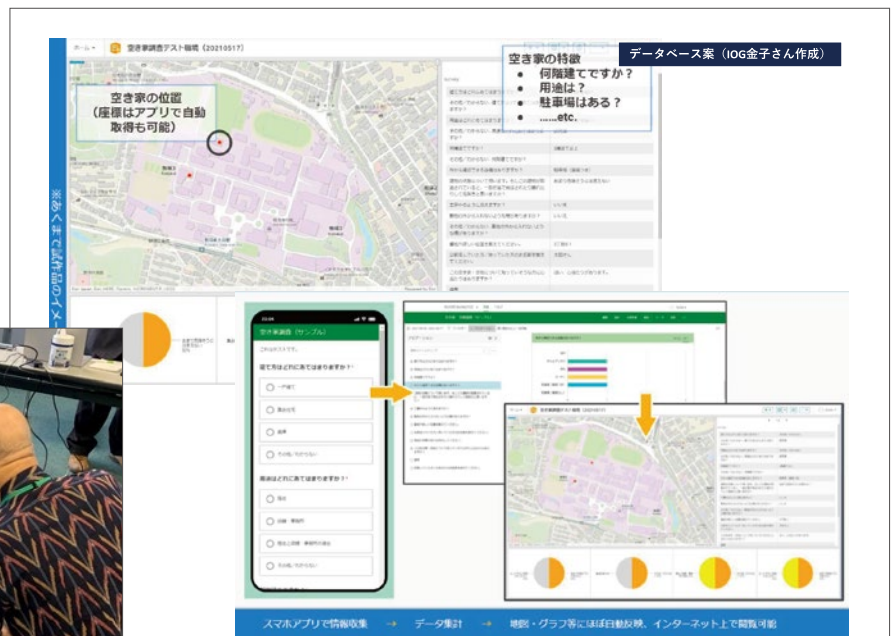
高齢社会における人間の「個」と「社会」という存在形態に依拠した形で、高齢社会に関わる基礎的知の基盤を伝授する。

【特論(座学)】 周辺領域理解力の修得

(選択必修/3科目6単位以上履修*)

高齢社会総合研究学の各専門分野の最前線を示す専門領域

▼ 学生による空き地情報のアプリ開発



▼ スタジオ(高齢社会総合研究学実習)



にかかわる視座を提供する。履修生は、これらの講義群の中から自らの興味と、実社会において実現したい生活場面に關わる、気になる近接領域の最前線を学ぶ。

選択肢の高いカリキュラムとする。

なお、実習は概論において高齢社会の基礎を修得した後に履修するものとする。(概論単位取得済が実習履修要件)

[実習(フィールド)] 社会接続力の修得

(選択必修/3科目6単位以上履修※)

活力ある超高齢社会を実現するためには、分野横断的専門家のチームと地域住民、行政、企業等による協働的活動を主導し、様々な現場の様々な課題を解決する力を備えた多様な人材が必要であり、上記の座学(概論と特論)に加えて、現場で分野横断的な取り組みに加わり、体験する。複数の実習を履修することを通して、マルチスケールの生活場面への研究成果の社会接続の技量を体験的に学ぶ。集中講義形式で、

[全体研究発表会] 多領域連携

(実習発表/博士論文研究発表)

実習履修者には、各実習の学期最後の講義として、年に2回の全体研究発表会を設け、本プログラム履修生全員で、それぞれの実習の成果を発表する。加えてこの全体発表会で、博士後期課程及び4年制博士課程の学生は博士論文研究の発表を行う。このことを通して、異分野の研究手法等を学び合う場をつくる。

※4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、本頁の修了要件とは異なる点があるので、別途確認すること。

■ 3_ 開講科目

2020年度開講科目一覧

2020年度カリキュラム一覧								
科目番号	開講科目名称・講義別名	単位数	開講区分	主担当教員名	曜日	時限(開始・終了)	必修選択必修	開講日講義室名 その他特記事項
講義(必修)								
3799-220	高齢社会総合研究学概論I 高齢者の体と心:老いとつきあう	2	夏学期(S1S2)	飯島	水	5限 16:50-18:35	必修	4/15~7/15 オンライン
3799-221	高齢社会総合研究学概論II 高齢社会のり・デザイン	2	冬学期(A1A2)	大月	火	5限 16:50-18:35	必修	9/29~1/5 オンライン
講義(選択必修:6単位以上取得※)								
3799-223	高齢社会総合研究学特論II 超高齢社会の住まい・まちづくり	2	夏学期(S1)	大月	火	6限-7限 18:45-22:25	選択必修	4/7~6/2 オンライン
3799-224	高齢社会総合研究学特論III 人生100年時代のライフコース論	2	夏学期(S1S2)	菅原	木	5限 16:50-18:35	選択必修	4/9~7/9 オンライン
3799-225	高齢社会総合研究学特論IV 高齢社会のケア・サポート・システム	2	夏学期(S2)	飯島 孫	火	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	6/9~7/14 オンライン
3799-226	高齢社会総合研究学特論V 地域農業マネジメント	2	冬学期(A2)	八木	火 金	5限 16:50-18:35	選択必修	11/24~(週2回)オンライン
3799-227	高齢社会総合研究学特論VI 高齢者法	2	冬学期(A1A2)	樋口 高橋	木	3限 13:00-14:45	選択必修	9/24~12/17 オンライン
3799-231	高齢社会総合研究学特論X ジェロントテクノロジー	2	冬学期(A1A2)	檜山 二瓶	金	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	10/2 オンライン
実習(選択必修:6単位以上取得※)								
3799-234	高齢社会総合研究学実習I	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	オンライン
3799-235	高齢社会総合研究学実習II	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上
3799-236	高齢社会総合研究学実習III	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上
3799-237	高齢社会総合研究学実習IV	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上
3799-238	高齢社会総合研究学実習V	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上
3799-239	高齢社会総合研究学実習VI	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上
3799-240	高齢社会総合研究学実習VII	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上
3799-241	高齢社会総合研究学実習VIII	2	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上
3799-259	高齢社会総合研究学演習X	1	通年	各教員	土	集中	選択必修	同上

2021年度開講科目一覧

2021年度カリキュラム一覧								
科目番号	開講科目名称・講義別名	単位数	開講区分	主担当 教員名	曜日	時限 (開始・終了)	必修選択必修	開講日講義室名 その他特記事項
講義(必修)								
3799-220	高齢社会総合研究学概論I 高齢者の体と心:老いにつきあう	2	夏学期(S1S2)	飯島	水	5限 16:50-18:35	必修	4/21~7/21 オンライン
3799-221	高齢社会総合研究学概論II 高齢社会のリ・デザイン	2	冬学期(A1A2)	大月	水	5限 16:50-18:35	必修	10/6~1/12 オンライン
講義(選択必修:6単位以上取得※)								
3799-224	高齢社会総合研究学特論III 人生100年時代のライフコース論	2	夏学期(S1S2)	大月 菅原	金	2限 10:25-12:10	選択必修	4/9~7/9 オンライン
3799-225	高齢社会総合研究学特論IV 高齢社会のケア・サポート・システム	2	夏学期(S2)	飯島	火	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	6/8~7/13 オンライン
3799-226	高齢社会総合研究学特論V 地域農業マネジメント	2	冬学期(A2)	八木	火 金	5限 17:05-18:35	選択必修	11/30~(週2回)オンライン
3799-231	高齢社会総合研究学特論X ジェロンテクノロジー	2	冬学期(A1A2)	檜山 二瓶	木	5限-6限 16:50-20:30	選択必修	10/7~ オンライン
実習(選択必修:6単位以上取得※)								
3799-234	高齢社会総合研究学実習I	2	通年	各教員	-	集中	選択必修	オンライン
3799-235	高齢社会総合研究学実習II	2	通年	各教員	-	集中	選択必修	同上
3799-236	高齢社会総合研究学実習III	2	通年	各教員	-	集中	選択必修	同上
3799-237	高齢社会総合研究学実習IV	2	通年	各教員	-	集中	選択必修	同上
3799-238	高齢社会総合研究学実習V	2	通年	各教員	-	集中	選択必修	同上
3799-239	高齢社会総合研究学実習VI	2	通年	各教員	-	集中	選択必修	同上
3799-240	高齢社会総合研究学実習VII	2	通年	各教員	-	集中	選択必修	同上
3799-241	高齢社会総合研究学実習VIII	2	通年	各教員	-	集中	選択必修	同上
3799-259	高齢社会総合研究学演習X	1	通年	各教員	-	集中	選択必修	同上

※ 2020年度以降に入学の4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、別途修了要件を確認すること。

■4_プログラムの修了要件

本プログラムでは、修士課程(博士前期課程)修了時点の Qualifying Examination (QE) 並びに博士後期課程修了時の Final Examination (FE) の2回の審査を行うとともに、各学年進学時には履修状況を確認し、所属専攻の研究活動と並行した本プログラムの活動が円滑かつ計画的に進められているかを、論文指導教員との連絡の下に確認し、必要に応じた履修・研究指導を行う。QE、FE等については、以下の内容とする。

■修士課程修了時 資格審査(QE: Qualifying Examination)

修士課程修了時のQEでは、「単位要件」、「学振要件」、「博士課程進学の確認」によって考査する。ただし、4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、上記に加え、「発表要件」も加味して可否を判定する。

- **単位要件:** 概論(必修)4単位と、特論(選択必修)と実習(選択必修)から6単位以上の、合計10単位以上取得しなければならない。[※]
- **学振要件:** 日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1もしくはDC2)に申請しなければならない。申請後すぐに、申請書及び採否通知PDFを提出すること。[※]
- **博士課程進学の確認:** 面接により博士後期課程進学の確認を行う。[※]

■博士課程修了時 修了審査(FE: Final Examination)

博士後期課程終了時のFEでは、「単位要件」、「発表要件」、「学振要件」によって考査する。この考査に加え、所属専攻における博士論文の審査に合格した場合、「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了証」が授与されるとともに、所属専攻が授ける博士の学位記に「高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム修了」という認定が付記される。

- **単位要件:** 概論(必修)4単位と、特論(選択必修)6単位以上と、実習(選択必修)6単位以上の、合計16単位以上取得しなければならない。[※]
- **発表要件:** 博士後期課程在籍期間中の各学期末に、指定された回数の博論研究進捗発表を、全体発表会時に行うこと。[※]
- **学振要件:** 日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC2)に申請しなければならない。申請後すぐに、申請書及び採否通知PDFを提出すること。[※]

□日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1、DC2)への申請

DCに採択されるまで継続して応募し、採択された場合においても本プログラムに引き続き在籍することが必要である。DCに応募しなかった場合には、理由書等で経緯を明らかにすること。理由によっては、プログラム履修の中断や経済的支援(卓越RA)の支給停止を行う場合がある。

□全体発表会における実習発表と博論研究進捗発表

年2回、各学期末に、全体発表会を行う。全体発表会は、実習発表と博論研究進捗発表からなる。実習を履修した者は、実習発表を行うことによって単位が授与される。さらに、博士課程在学中は6回から8回の博論研究進捗発表を行わなければならない。

[※]4年制博士課程と先端学際工学専攻博士後期課程の者については、本頁の修了要件とは異なる点があるので、別途確認すること。

■5_経済的支援(卓越RA)

経済的支援は、所定の様式にて申請した者に対し、選考委員会で審査し、給付額を決定し、卓越RAとして委嘱します。

修士課程2年次の履修生には月額6万円を上限に、博士後期課程及び4年制博士課程のコース生には月額18万円を上限に支給します。

プログラム担当教員

*所属・職名は2022年3月末現在

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名
染谷 隆夫	工学系研究科・研究科長、電気系工学専攻・教授
大月 敏雄	工学系研究科建築学専攻・教授、高齢社会総合研究機構・副機構長
飯島 勝矢	高齢社会総合研究機構・機構長/未来ビジョン研究センター・教授
祐成 保志	高齢社会総合研究機構・副機構長/大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻・准教授
井口 高志	大学院人文社会系研究科 社会文化研究専攻・准教授
高橋 美保	大学院教育学研究科 総合教育科学専攻・教授
北村 友人	大学院教育学研究科 学校教育高度化専攻・教授
加藤 淳子	大学院法学政治学研究科 総合法政専攻・教授
横山 ゆりか	大学院総合文化研究科 広域科学専攻・教授
福田 大輔	大学院工学系研究科 社会基盤学専攻・教授
松田 雄二	大学院工学系研究科 建築学専攻・准教授
小泉 秀樹	大学院工学系研究科 都市工学専攻・教授
柳澤 秀吉	大学院工学系研究科 機械工学専攻・准教授
鈴木 雄二	大学院工学系研究科 機械工学専攻・教授、工学系研究科・副研究科長
横野 泰之	大学院工学系研究科 機械工学専攻・特任教授
浅間 一	大学院工学系研究科 精密工学専攻・教授
青山 和浩	大学院工学系研究科 システム創成学専攻・教授
小紫 公也	大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻・教授
峯松 信明	大学院工学系研究科 電気系工学専攻・教授
求 幸年	大学院工学系研究科 物理工学専攻・教授
吉田 英弘	大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻・教授
山口 和也	大学院工学系研究科 応用化学専攻・教授
伊藤 大知	大学院工学系研究科 化学システム工学専攻/大学院医学系研究科 附属疾患生命工学センター・教授
森本 淳平	大学院工学系研究科 化学生命工学専攻・講師
檜山 敦	大学院工学系研究科 先端学際工学専攻・特任准教授
藤井 康正	大学院工学系研究科 原子力国際専攻・教授
酒井 崇匡	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻・教授
茂木 源人	大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻・教授
安永 円理子	大学院農学生命科学研究科 附属生態調和農学機構・准教授(同研究科生物・環境工学専攻兼任/生産・環境生物学専攻兼任)
三坂 巧	大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻・准教授
潮 秀樹	大学院農学生命科学研究科 水圏生物学専攻・教授
八木 洋憲	大学院農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻・准教授
高橋 伸一郎	大学院農学生命科学研究科 応用動物科学専攻・教授
堀 正敏	大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻・教授
橋本 英樹	大学院医学系研究科 公共健康医学専攻・教授(同研究科社会医学専攻兼任/健康科学・看護学専攻兼任)
小川 純人	大学院医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻・准教授
山田 雄太	大学院医学系研究科 外科学専攻・講師
山本 則子	大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授
神馬 征峰	大学院医学系研究科 国際保健学専攻・教授
大崎 博之	大学院新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻・教授
二瓶 美里	大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻・准教授
割澤 伸一	大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻・教授
岡部 明子	大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻・教授
中田 啓之	大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻・教授
鳴海 拓志	大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・准教授
越塚 登	学際情報学府 学際情報学専攻・教授
濱田 健夫	学際情報学府 学際情報学専攻・特任講師
孫 輔卿	未来ビジョン研究センター・特任講師

応募状況と合格者

	2020年度	2021年度
プログラム募集定員数	10人	14人
応募学生数	7人	31人
うち留学生数	0人	10人
うち自大学出身者数	2人(0人)	13人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	18人(10人)
うち社会人学生数	4人(0人)	3人(3人)
うち女性	3人(0人)	9人(4人)
合格者数	7人	14人
うち留学生数	0人	2人
うち自大学出身者数	2人(0人)	10人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	4人(2人)
うち社会人学生数	4人(0人)	1人(1人)
うち女性	3人(0人)	5人(1人)
②のうち受講学生数	7人	14人
うち留学生数	0人	2人
うち自大学出身者数	2人(0人)	10人(0人)
うち他大学出身者数	5人(0人)	4人(2人)
うち社会人学生数	4人(0人)	1人(1人)
うち女性	3人(0人)	5人(1人)
プログラム合格率(①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	1.00倍	2.21倍
充足率(合格者数/募集定員)	70%	140%

※ 博士入学生 2020年度、2021年度：3年制博士1年次 各1名

※()は留学生の人数

※ 2021年度は、2回(4月、9月)募集の合計

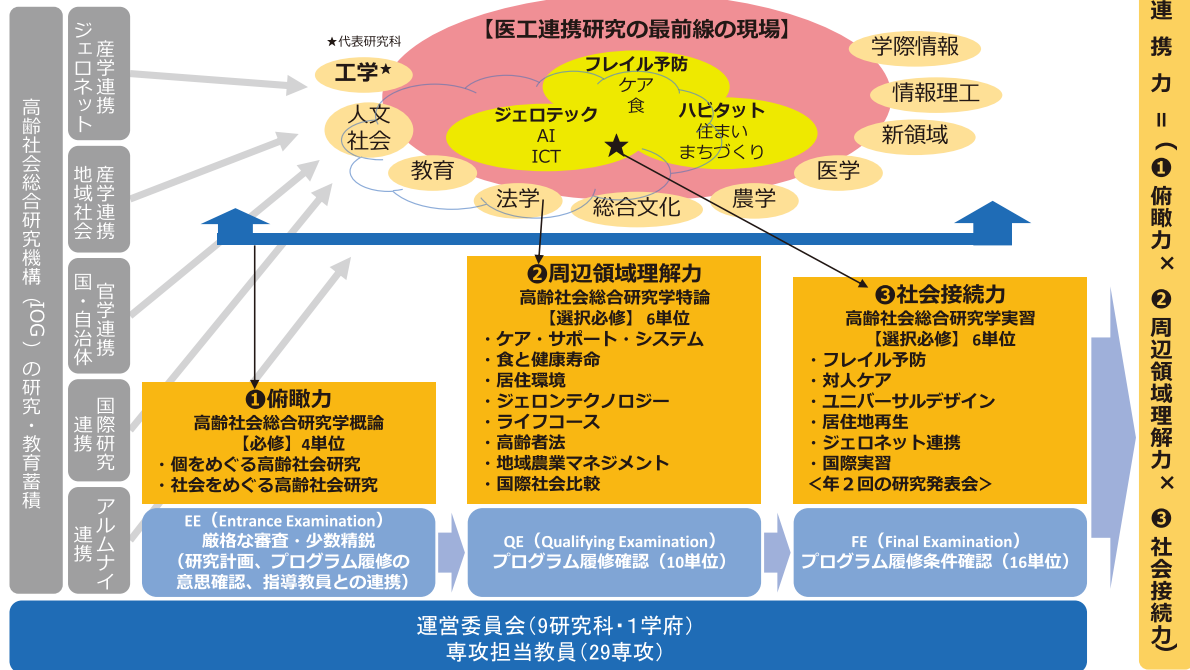
※各年度：各年度末現在

WING-GLAFSの全体像

■ 2020年スタート時

高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS

日本を皮切りに世界中のあらゆる領域でデフォルトとなっていく高齢社会特有の課題解決に向けて、**高齢社会総合研究学（ジェロントロジー）の体系を踏まえつつ、医工連携研究の最前線の現場で俯瞰力、周辺領域理解力、社会接続力を育みながら、研究の多領域連携力を身につけた人材**



■ 2022年度～



学生の業績

GLAFSの学生が2020—2021年度に発表した研究論文や学会発表などの業績について紹介します。

稲垣 安沙

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Eltaybani S, Yasaka T, Fukui C, Inagaki A, Takaoka M, Suzuki H, Maruyama M, Yamamoto-Mitani N. Family-oriented interventions in long-term care residential settings: a scoping review protocol. JBI Evid Synth. 2021 Feb 9. doi: 10.11124/J-BIES-20-00289. Epub ahead of print. PMID: 33577233. 査読有
2. Fukui C, Igarashi A, Noguchi-Watanabe M, Sakka M, Naruse T, Kitamura S, Inagaki A, Takaoka M, Yasaka T, Kobayashi H, Yamamoto-Mitani N. Development of Quality Indicators for Evaluating the Quality of Long-term Care. Geriatrics & Gerontology International. 2021 Feb 14. doi: 10.1111/ggi.14138. 査読有
3. Inagaki A, Noguchi-Watanabe M, Sakka M, Yamamoto-Mitani N. Homecare nurses' community involvement activities and preference regarding the place for end-of-life period among single older adults: A cross-sectional study in Japan. Journal of Health and Social Care in the Community. 2020 Dec 14. doi: 10.1111/ggi.14082. Epub ahead of print. PMID: 33319458. 査読有
4. Noguchi-Watanabe M, Yamamoto-Mitani N, Nagami Y, Eltaybani S, Inagaki A, Taniguchi Y. Homecare nurses' length of conversation and intention to remain at the workplace: A multilevel analysis. Journal of Nursing Management. 2020 Nov 11. doi: 10.1111/jonm.13212. Epub ahead of print. PMID: 33179317. 査読有
5. Anezaki S, Sakka M, Noguchi-Watanabe M, Igarashi A, Inagaki A, Tsuno Y, Omori J, Ota A, Yamamoto-Mitani N. Association between participation in hospital-led community activities and sense of security in continued community living among older adults in rural district of Japan: A cross-sectional study. Health and Social Care in the Community. 2020 Oct 21. doi:10.1111/h-sc.13191. 査読有
6. 野口麻衣子, 姉崎沙緒里, 五十嵐歩, 目麻里子, 稲垣 安沙, 津野陽子, 大森純子, 山本則子. Social Community Nursing機能【前編】. コミュニティケア, 2020; 23(4), 29-34. 査読有
7. 稲垣安沙, 高野純子, 野口麻衣子, 山本則子. 地域在住高齢者のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の実施状況と関連要因: 横断研究. 日本看護科学会誌. 2020;40:56-64. 査読有
8. 野口麻衣子, 山本則子, 稲垣安沙, 沼田華子, 山田享介. 訪問看護事業所における看護実践に焦点を当てたケースカンファレンスの試行と効果. 日本在宅看護学会. 2021; 10(1): 95-102. 査読有
9. 姉崎沙緒里, 野口麻衣子, 五十嵐歩, 目麻里子, 稲垣 安沙, 津野陽子,

大森純子, 山本則子. . Social Community Nursing機能【後編】. コミュニティケア. 2021; 23(5): 39-42. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Shinohara M, Sakka M, Inagaki A, Yasaka T, Fukui C, Noguchi-Watanabe M, Igarashi A, Yamamoto-Mitani N. Association Between Advance Care Planning for Older Adults and Family Caregivers' Sense of Security. GSA 2021 Annual Scientific Meeting. Nov, 202. 査読有
2. Sakka M, Igarashi A, Fukui C, Noguchi-Watanabe M, Inagaki A, Takaoka M, Kobayashi H, Yamamoto-Mitani N. Agreement between proxy-rated and self-report quality of life for persons with dementia. GSA 2020 Annual Scientific Meeting, November 4-7, 2020 USA, Online. 査読有
3. Inagaki A, Igarashi A, Noguchi-Watanabe M, Sakka M, Fukui C, Yasaka T, Shinohara M, Yamamoto-Mitani N. Physical Restraints of Older adults at Home: Preliminary Analysis of a Prospective Cohort Study, GSA 2020 Annual Scientific Meeting, November 4-7, 2020 USA, Online. 査読有
4. Igarashi A, Katayama M, Sakka M, Noguchi-Watanabe M, Fukui C, Kitamura S, Inagaki A, Takaoka M, Yamamoto-Mitani N. Use of homecare nursing and sense of security among family caregivers of older adults. GSA 2020 Annual Scientific Meeting, Online meeting, October 2020. 査読有
5. 稲垣安沙, 福井千絵, 五十嵐歩, 野口麻衣子, 目麻里子, 北村智美, 高岡茉奈美, 小林弘美, 矢坂泰介, 山本則子. 在宅療養中高齢者の療養上の満足感と基本属性の関連. 第40回日本看護科学学会, オンライン開催, 2020年12月12日~12月13日. 査読有
6. 野口麻衣子, 五十嵐歩, 目麻里子, 稲垣安沙, 大森純子, 津野陽子, 山本則子. Social Community Nursesによる活動の定着プロセス. 第40回 日本看護科学学会学術集会. Dec. 12-13, 2020; 東京(Web開催)査読有
7. 福井千絵, 野口麻衣子, 五十嵐歩, 目麻里子, 稲垣安沙, 片山真登香, 山本則子. 在宅療養高齢者の訪問看護の利用と家族のウェルビーイングとの関連: 前向きコホート研究. 日本家族看護学会第27回学術集会; Sep. 12-13, 2020: 名古屋(Web開催)査読有
8. 野口麻衣子, 山花令子, 稲垣安沙, 山本則子. 訪問看護ステーション管理者が在宅療養者のケアに関して専門性の高い看護師から受けた支援. 第7回CNS看護学会; June 13, 2020: 京都(誌上開催)査読有
9. 野口麻衣子, 五十嵐歩, 目麻里子, 福井小紀子, 柏木聖代, 池崎澄江, 北村智美, 稲垣安沙, 小林弘美, 山本則子. 施設・在宅横断型質指標の開発~VENUS(Visualizing Effectiveness of NURsing and Long-term care)プロジェクト~第2回日本在宅医療連合学会; June 27-28, 2020: 名古屋(Web開催)査読有

10. 福井千絵, 稲垣安沙, 五十嵐歩, 野口麻衣子, 目麻里子, 北村智美, 高岡茉奈美, 小林弘美, 矢坂泰介, 山本則子. 在宅療養中の高齢者家族における療養生活に関する安心感と属性との関連:横断研究. 日本老年看護学会第25回学術集会; Jun. 20-21, 2020; 島根(誌上開催). 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. Inagaki A, Igarashi A, Noguchi-Watanabe M, Sakka M, Fukui C, Yasaka T, Shinohara M, Yamamoto-Mitani N. Physical Restraints of Older adults at Home: Preliminary Analysis of a Prospective Cohort Study, GSA 2020 Annual Scientific Meeting, November 4-7, 2020 USA, Online. 査読有

江藤 人拓

1. 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Etoh H, Omura Y, Kaminishi K, Chiba R, Takakusaki K, Ota J. Proposal of a Neuromusculoskeletal Model Considering Muscle Tone in Human Gait. 2021 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC), Melbourne, Australia, 2021. 10. 17-20. 査読有
2. Etoh H, Omura Y, Kaminishi K, Chiba R, Takakusaki K, Ota J. Proposal of a Computational Simulation that Considers Muscle Tone in Human Standing and Gait. 1st International Symposium on Hyper-Adaptability, 2021. 5. 26-27. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 江藤人拓. 歩行開始動作における先行随伴性姿勢調節の有効性の検証. 2021年度先端ロボット工学合同ワークショップ, オンライン開催, 2021. 12. 11. 査読無
2. 江藤人拓, 尾村優一郎, 上西康平, 千葉龍介, 高草木薫, 太田順. 歩行開始動作における予期的姿勢調節の動作計画. 第3回(2021年度)超適応全体会議, オンライン開催, 2022. 3. 7-8. 査読無
3. Chiba R, Etoh H, Omura Y, Kaminishi K, Takakusaki K, Ota J.. A Control Model incorporating Physiological Knowledge for Elucidating Postural Control in Human. 第99回日本生理学会大会, 東北大学川内北キャンパス, 2022. 3. 16-18.

2. 受賞歴

1. 2021年5月「2021年度 精密工学会 春季大会学術講演会 ベストプレゼンテーション賞」(江藤人拓, 尾村優一郎, 上西康平, 千葉龍介, 高草木薫, 太田順. 脳神経筋骨格シミュレーションによる立位と歩行における筋緊張の影響の解析)
2. 2021年12月「先端ロボット工学合同ワークショップ 3位」(江藤人拓. 歩行開始動作における先行随伴性姿勢調節の有効性の検証.)

王聰

1. 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Wang C, Fushiki Y, Saito K. Impact of credit on vulnerability to poverty: empirical evidence from Nepal. The 10th ASAE (Asian Society of Agricultural Economists) International Conference, Virtual conference, 2021. 12. 6-8. 査読有
2. Wang C, Fushiki Y, Saito K. Determinants of livelihood diversification strategies in Nepal. The 31st International Conference of Agricultural Economists (ICAE 31), Virtual conference, 2021. 8. 17-31. 査読有

小川 景司

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 小川景司, 八木洋憲. 集落営農法人による事業選択の特徴と持続可能性—滋賀県における実態分析—. 農業経営研究, 2020年; 58(2): 47-52. 査読有

風間 健人

1. 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 風間健人, 高木聡一郎. 越境人材による知識スピルオーバーが企業のイノベーションに与える影響 -越境フリーランスへのインタビュー調査及びSCATによる質的データ分析-, 社会経済システム学会 第40回大会, 2021年10月30日. 査読無
2. 風間健人. めじろ台スタジオ実習報告~ポスト超高齢化 -ポストコロナのまちづくり運営-, 東京大学高齢社会総合研究機構2021年度シンポジウム, 2022年3月9日. 査読無

金沢 直晃

1. 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 金沢直晃, 北川晋吾, 室岡貴之, 岡田慧, 稲葉雅幸. 調理道具を扱う双腕ロボットによる野菜皮剥き切断操作の認識行動実現システム. 第21回SICEシステムインテグレーション部門講演会, オンライン, 2020.12.16-18. 査読無
2. 金沢直晃, 岡田慧, 稲葉雅幸. 台車移動型双腕ロボットによるカレー調理行動実行システム. 第39回日本ロボット学会学術講演会, オンライン, 2021.9.8-11. 査読無
3. 金沢直晃, 北川晋吾, 室岡貴之, 岡田慧, 稲葉雅幸. テンプレートマッ

チング認識とプリミティブ動作により状態を考慮した家電操作を行うロボットシステム. 第22回SICEシステムインテグレーション部門講演会, オンライン, 2021.12.15-17. 査読無

2. 受賞歴

- 2021年12月「第22回 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会(SI2021) 優秀講演賞」(金沢直見, 北川晋吾, 室岡貴之, 岡田慧, 稲葉雅幸. テンプレートマッチング認識とプリミティブ動作により状態を考慮した家電操作を行うロボットシステム)

Kang Sooln

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

- 森 武俊, カン スーイン, 褥瘡画像のAI 技術による画像処理, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 2021, 25 巻, 3 号, 490-498, 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Kang S.I., Shuhei N, Noguchi H, Takahashi T, Sanada H, Mori T. Development of an Electrical Impedance Tomography Spectroscopy for Pressure Ulcer Monitoring Tool: Preliminary study. 42nd EMB Conference, Montreal, Canada. 2020. 7. 20-24. 査読有.
- Kang S.I., Mori T. Pressure ulcer segmentation to record wound size using recurrent residual convolutional neural network. The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, Tokyo, Japan. 2021. 7. 3-5. 査読有.
- Yoshioka D., Kogami H., Kang S.I., Yoshizaki R., Sakurai Y., Nakano K., Wu J., Fujisaki-Sueda-Sakai M., Sugawara I., Miura T., Yabu K., Ito K., Ifukube T. Evaluation of IoT-Setting Method Among Senior Citizens in Japan. 24th International Conference on Human-Computer Interaction, Washington DC, USA. 2021. 7. 24-29. 査読有.
- Kang S.I., Mori T. Segmentation of Pressure Ulcer Images for Estimation of Wound Status Using Residual Convolutional Neural Network. 43rd EMB Conference, Virtual. 2021. 11. 1-5. 査読有.
- Kang S., Yoshizaki R., Kogami H., Nakano K., Sakurai Y., Yoshioka D., Wu J., Fujisaki-Sueda-Sakai M., Sugawara I., Miura T., Yabu K., Ito K., Akiyama H., Otsuki T., Ifukube T. Preliminary evaluation of an IoT setting method for universal design. International Conference on Design and Concurrent Engineering 2021 & Manufacturing Systems Conference 2021, Virtual. 2021. 9. 3-4. 査読有.
- Kang S.I., Ito K., Yoshizaki R., Kogami H., Nakano K., Yoshioka D., Sakurai Y., Fujisaki-Sueda-Sakai M., Sugawara I., Miura T., Yabu K., Ifukube T. Enriching IoT Web Application Experience by Integrating Containerized Edge Resource. 2022 IEEE 4th Global Conference on Life Sciences and Technologies, Osaka, Japan. 2022. 3. 7-9. 査読有.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- Kang S.I., 野寄修平, 野口博史, 高橋聡明, 真田弘, 森武俊. Developing Wound Monitoring System Using Electrical Impedance Tomography Spectroscopy: Preliminary Trial 第29回日本創傷・オ

ストミー・失禁管理学会学術集会, 奈良県. 2020. 5. 16-17. 査読有.

- Kang S.I., Shuhei N., Noguchi H., Takahashi T., Sanada H., Mori T. Impedance tomography spectroscopy for simultaneous classification of depth and tissue in pressure ulcers: Preliminary study. ロボティクス・メカトロニクス講演会2020, 金沢, 2020. 5. 27-30. 査読有.
- Kang S.I., Mori T. Vessel recognition using multi-frequencies of skin impedance and signal similarity of photoplethysmography. ロボティクス・メカトロニクス講演会2021, 大阪, 2021. 6. 6-8. 査読有.
- 中野航綺, 吉崎れいな, 湖上碩樹, 小川景司, 吉岡大介, カンスイン, 櫻井友理希, 藤崎万裕, 伊藤研一郎, 菅原育子. 高齢者主体の地域活動におけるIT技術導入・普及過程の分析. 第63回日本老年社会学会, 2021. 6. 12-13. 査読有.
- Kang S.I., Mori T. Venous blood flow measurement using both electrical impedance tomography and photoplethysmography. 第9回看護理工学会学術集会, オンライン開催, 2021. 10. 22-23. 査読有.
- Kang S.I., Mori T. Multi-frequency impedance tomography for velocity estimation of vein blood flow. 第61回日本生体医工学会大会 2022, 新潟, 2022. 6. 28-30. 査読有. 採択済.

金東律

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

- 金東律, 八木洋憲, 木南章. 営農管理情報システムを用いた情報の取得と活用:水田経営における従事者の職務とコミュニケーションに着目して. 農業経営研究, 2020; 58(3): 27-32. 査読有
- 八木洋憲, 金東律. 農業法人のスマート農業導入における PDCA による経営改善 (特集 スマート農業は農村に何をもたらすか). 農村計画学会誌, 2021; 40(3): 142-147. 査読無

【著書、編著】

- 八木洋憲, 金東律. 稲作における農業経営情報システムの導入効果と経営革新. 南石晃明(編). デジタル・ゲノム時代の農業イノベーション. 農林統計出版, 2022(予定).

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Dongyool K, Taichi M, Shuichiro H, Yerim Y, Sayaka T, Mai T, Ryogo O, Jun G. A Community Space with Diverse Activities Support Older Adults' Social Participation and Sustain Social Connection. Gerontological Society of America 2020 Annual Scientific Meeting, Philadelphia, USA, 2020.11.4-8. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 八木洋憲, 金東律, 飯田訓久. 多面的機支払いによる水田経営の支援効果 一数理計画モデルの実態への適用による一. 日本農業経済学会, 茨城, 2021. 3. 28. 査読有
- 金東律, 八木洋憲, 木南章. 水田経営の情報化が組織内の作業調整に与える影響-農業経営情報システムの導入事例における継続的調査より-. 日本農業経営学会, 鹿児島, 2021. 9. 19. 査読有

日下部 紗伎

1. 論文等

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Kusakabe S., Katashima T., Akagi Y., Linear viscoelasticity of polyethylene oxide nanocomposites. Annual European Rheology Conference Cyberspace, 2021, Online, 2021. 4. 13-15. 査読無
2. Kusakabe S., Katashima T., Akagi Y., Structure and linear viscoelasticity of PEO-silica composites. Pacificchem, 2021, Online, 2021. 12. 16-21. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 日下部紗伎, 片島拓弥, 中川桂一, 赤木友紀. PEOコンポジットの線形領域におけるレオロジー的検討. 日本レオロジー学会第47年会, 東京, 2020. 5. 13-14. 査読無
2. 日下部紗伎, 片島拓弥, 中川桂一, 赤木友紀. PEO-silica混合系の線形領域におけるレオロジー的検討. 第69回高分子学会年次大会, 福岡, 2020. 5. 27-29. 査読無
3. 日下部紗伎, 片島拓弥, 赤木友紀. PEOコンポジットの線形領域におけるレオロジー的検討. 第68回レオロジー討論会, 福岡, 2020.10. 21-23. 査読無
4. 日下部紗伎, 片島拓弥, 赤木友紀. PEO/silica混合系の線形粘弾性とダイナミクス. 日本化学会 第101春季年会, オンライン, 2021. 3. 19-22. 査読無
5. 日下部紗伎, 片島拓弥, 李响, 小林恵津子, 赤木友紀. PEO/silica混合系の線形粘弾性とミクロな構造. 第70回高分子討論会, オンライン, 2021. 9. 6-8. 査読無
6. 日下部紗伎, 片島拓弥, 李响, 小林恵津子, 赤木友紀. PEO/silicaコンポジットの線形粘弾性とミクロな構造. 第69回レオロジー討論会, オンライン, 2021. 10. 20-22. 査読無

呉江

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Wu J, Shino M. Hip Lift Transfer Assistive System for Reducing Burden on Caregiver's Waist. Sensors, 2021, 21.22: 7548. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Wu J, Dai Y, Li J, Yuan Y. UI/UX Design of Portable Simulation Pet 'KEDAMA' Hairball for Relieving Pressure. 23rd International Conference on Human-Computer Interaction, Washington DC, 2021.7.24-29, p. 215-223. 査読有
2. Wu J, Shino M. Pneumatic Multi-Pocket Elastomer Actuator for Simulating Tendon Driven Human Muscle. 2021 IEEE International Conference on Robotics and Biomimetics, Sanya, China, 2021.12.27-31, p.143-148. 査読有
3. Wu J, Dai Y, Yuan Y, Li J. UI/UX Design Methodology of Portable Customizable Simulated Pet System Considering Human Mental Health. The 2022 IEEE 4th Global Conference on Life Science and Technologies, Osaka, Japan, 2022.3.7-9, p.488-492. 査読有

2. 受賞歴

2021.9.26 「最優秀賞(学生部門)」,福祉機器コンテスト2021 (呉江, 毛玉(KEDAMA))

湖上 碩樹

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Wang R, An Q, Yang N, Kogami H, Yoshida K, Hamada H, Shimoda S, Yamasaki H, Yokoyama M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Clarify sit-to-stand muscle synergy and tension changes in subacute stroke rehabilitation by musculoskeletal modeling. Frontiers in Systems Neuroscience, 2022 (Accepted). 査読有
2. An Q, Yang N, Yamakawa H, Kogami H, Yoshida K, Wang R, Yamashita A, Asama H, Ishiguro S, Shimoda S, Yamasaki H, Yokoyama M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Kurazume R. Force applied to handrail reflects motor disability of patients with stroke. IEEE Transactions on Neural Systems and Rehabilitation Engineering, 2021; 29: 2399-2406. 査読有
3. Kogami H, An Q, Yang N, Wang R, Yoshida K, Hamada H, Yamakawa H, Tamura Y, Shimoda S, Yamasaki H, Yokoyama M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Analysis of muscle synergy and kinematics in sit-to-stand motion of hemiplegic patients in subacute period. Advanced Robotics, 2021; 35(13-14): 867-877. 査読有
4. Yang N, An Q, Kogami H, Yoshida K, Yamakawa H, Tamura Y, Shimoda S, Yamasaki H, Sonoo M, Itkonen M, Shibata-Alnajjar F, Hattori N, Kinomoto M, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Temporal muscle synergy features estimate effects of short-term rehabilitation in sit-to-stand of post-stroke patients. IEEE Robotics and Automation Letter, 2020; 5(2): 1796-1802. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Kang S, Ito K, Yoshizaki R, Kogami H, Nakano K, Yoshioka D, Sakurai Y, Fujisaki-Sueda-Sakai M, Sugawara I, Miura T, Yabu K, Ifukube T. Enriching IoT web application experience by integrating containerized edge resource. Proceedings of the 2022 IEEE 4th Global Conference on Life Sciences and Technologies (IEEE LifeTech 2022), Osaka, Japan, 2022. 3. 7-9 (Accepted). 査読有
2. Mukai A, Hara S, Yamagishi K, Terabayashi R, Shimazoe K, Tamura Y, Woo H, Kishimoto T, Kogami H, Zhong Z, Uenomachi M, Nurrachman A, Takahashi H, Asama H, Ishida F, Ebi H, Takada E, Kawarabayashi J, Tanabe K, Kamada K, Tomita H. Optimization of detector movement algorithm using decision tree analysis for radiation source identification based on 4π gamma imaging. Proceedings of the 2022 IEEE/SICE International Symposium on System Integration (SII2022), Online, 2022. 1. 9-12. pp. 1026-1029. 査読有

3. Hara S, Tomita H, Mukai A, Yamagishi K, Ebi H, Terabayashi R, Shimazoe K, Nurrachman A, Zhihong Z, Uenomachi M, Woo H, Kishimoto T, Kogami H, Asama H, Tamura Y, Ishida F, Takada E, Kawarabayashi J, Tanabe K, Kamada K. Measurement protocol optimization using machine learning for radiation source identification based on 4π gamma imaging. Proceedings of the 2021 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference (NSS MIC2021), Online, 2021.10. 16–23, N-09-179. 査読有
4. Mukai A, Yamagishi K, Hara S, Terabayashi R, Shimazoe K, Tamura Y, Woo H, Kishimoto T, Kogami H, Zhihong Z, Uenomachi M, Nurrachman A, Takahashi H, Asama H, Ishida F, Ebi H, Takada E, Kawarabayashi J, Tanabe K, Kamada K, Tomita H Development of radiation source identification device based on 4π gamma imaging with LiDAR-SLAM. Proceedings of the 2021 IEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference (NSS MIC2021), Online, 2021.10. 16–23, N-09-169. 査読有
5. Kang S, Yoshizaki R, Kogami H, Nakano K, Sakurai Y, Yoshioka D, Wu J, Fujisaki-Sueda-Sakai M, Sugawara I, Miura T, Yabu K, Ito K, Okitsu T, Ifukube T. Preliminary evaluation of an IoT setting method for universal design: a case study of young adults. Proceedings of the International Conference on Design and Concurrent Engineering 2021 & Manufacturing Systems Conference 2021 (iDECON/MS 2021), Online, 2021. 9. 3–4. Paper No. 48, pp. 1–4. 査読有
6. Yoshioka D, Kogami H, Kang S, Yoshizaki R, Sakurai Y, Nakano K, Wu J, Fujisaki-Sueda-Sakai M, Sugawara I, Miura T, Yabu K, Ito K, Ifukube T. Evaluation of IoT setting method among senior citizens in Japan. Proceedings of 23rd International Conference on Human-Computer Interaction (HCI 2021), Online, 2021. 7. 24–29. Lecture Notes in Computer Science, Vol. 12786, pp. 278–292. 査読有
7. Ito K, Kogami H, Kang S, Yoshizaki R, Sakurai Y, Nakano K, Yoshioka D, Wu J, Fujisaki-Sueda-Sakai M, Miura T, Sugawara I, Yabu K, Ifukube T. Configuring interface for IoT: natural user interface study on senior adults in Japan. Proceedings of the 2021 IEEE 3rd Global Conference on Life Sciences and Technologies (IEEE LifeTech 2021), Nara, Japan, 2021. 3. 9–11. 査読有
8. Wang R, An Q, Yang N, Kogami H, Yoshida K, Hamada H, Shimoda S, Yamasaki H, Sonoo M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Muscle tension analysis in stroke patient sit-to-stand motion by joint torque-based normalization, Proceedings of the 5th International Conference on NeuroRehabilitation (ICNR2020), Online, 2020. 10. 13–16 (Best Paper Award). 査読有
8. Yang N, An Q, Kogami H, Yoshida K, Yamakawa H, Tamura Y, Shimoda S, Yamasaki H, Sonoo M, Itkonen M, Alnajjar F, Hattori N, Kinomoto M, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Temporal muscle synergy features estimate effects of short-term rehabilitation in sit-to-stand of post-stroke patients. Proceedings of the 2020 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA2020), Paris, France, 2020. 5. 31–6. 30. (IEEE Robotics and Automation Letters, Vol. 5, No. 2, pp. 1796–1802, April 2020.) 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 安琪, 山川博司, 湖上碩樹, 吉田和憲, 王若曦, 山下淳, 浅間一, 楊濤

嘉, 横山萌香, 下田真吾, Fady Alnajjar, 山崎弘嗣, 石黒周, 服部憲明, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗宏範, 宮井一郎, 倉爪亮. 起立動作中の縦手すりにかかる力を用いた運動機能の評価. 第36回ライフサポート学会大会講演予稿集(LIFE2020–2021), オンライン開催, 2021. 9. 16–18. pp. 114–116 (OS-7-7). 査読無

2. 中野航綺, 吉崎れいな, 湖上碩樹, 小川景司, 吉岡大介, カンスイン, 櫻井友理希, 藤崎万裕, 伊藤研一郎, 菅原育子. 高齢者主体の地域活動におけるIT技術導入・普及過程の分析. 日本老年社会学会第63回大会, オンライン開催, 2021. 6. 12–27 (演題No. 28). 査読有
3. 湖上碩樹, 安琪, 吉田和憲, 王若曦, 山川博司, 楊濤, 山崎弘嗣, Fady Shibata-Alnajjar, 園尾萌香, 下田真吾, 服部憲明, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗宏範, 宮井一郎, 田村雄介, 山下淳, 浅間一. リハビリテーションにおける片麻痺患者の起立動作の改善過程の解明滑らかさと安定性による評価—滑らかさと安定性による評価—. 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2020講演予稿集(SSI2020), オンライン開催, 2020. 11. 15–17. pp. 570–573 (GS3-1-2). 査読無
3. Qi An, 山川博司, 湖上碩樹, 吉田和憲, 王若曦, 山下淳, 浅間一, 石黒周, 下田真吾, 楊濤, 山崎弘嗣, 園尾萌香, Fady Shibata-Alnajjar, 服部憲明, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗宏範, 宮井一郎, 倉爪亮. 片麻痺患者の起立動作中の手すりにかかる力を用いた運動障害の度合の分類. 第38回日本ロボット学会・学術講演会講演予稿集(RSJ2020), オンライン開催, 2020. 10. 9–11. pp. 1–3 (RSJ2020AC2H2-02). 査読無

2. 受賞歴

1. 2020年10月「Best paper Award」(Wang R, An Q, Yang N, Kogami H, Yoshida K, Hamada H, Shimoda S, Yamasaki H, Sonoo M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Muscle tension analysis in stroke patient sit-to-stand motion by joint torque-based normalization, Proceedings of the 5th International Conference on NeuroRehabilitation (ICNR2020), Online, 2020. 10. 13–16. 国際学会8と同じ.)

櫻井友理希

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Yuriki Sakurai, Kyungmin Baeg, Andy Y. W. Lam, Keisuke Shoji, *Yukihide Tomari, *Hiro-oki Iwakawa. Cell-free reconstitution reveals the molecular mechanisms for the initiation of secondary siRNA biogenesis in plants. Proceedings of the National Academy of Sciences 118(31) e2102889118-e2102889118. 2021年8月3日 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 櫻井 友理希1, Baeg Kyungmin1,2,3, Andy Y.W. Lam 1, 庄司佳祐 1,5, 吉川 学4, 泊 幸秀1, 岩川 弘宙1,6 (1東京大学, 2基礎科学研究所, 3ソウル大学, 4農研機構, 5宇都宮大学, 6JST PRESTO) 植物における二次的小分子RNA生成経路の試験管内再現. 第22回日本RNA学会年会2019年7月7-9 演題番号P-29 (ポスター)

2. 受賞歴

1. 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 令和3年度ERA(Excellent Research Award)優秀賞 2022年2月

島田啓太郎

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Shimada K, Inada Y, Ishijima A, Nakagawa K. Optical design of a laser wavefront sensor applicable under strong diffraction effects by irreproducible microscale high-density plasma. Measurement Science and Technology. 2022; 33(5): 055403. 査読有
2. 島田啓太郎, 石島歩, 佐伯峻生, 佐久間一郎, 稲田優貴, 中川桂一. 二波長帯伸長パルスによるシングルショット透過分光イメージング. レーザー研究, 2021; 49(4): 240-244. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 島田啓太郎, 佐伯峻生, 稲田優貴, 中川桂一. 超高速イメージングを多様化するSTAMP技術. フォトニクスニュース, 2021; 7(2): 80-84. 査読無

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Shimada K, Inada Y, Ishijima A, Saiki T, Sakuma I, Nakagawa K. Electron density imaging of ultrafast plasma dynamics with two-color STAMP. OPIC OPTICS & PHOTONICS International Congress 2021, Online, 2021. 4. 19. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 西田享平, Song H, 月原弘之, 石島歩, 佐伯峻生, 島田啓太郎, 原一晃, 佐久間一郎, 小林英津子, 中川桂一. 手術時に発生する微粒子動態解析のためのレーザーシート走査型3次元速度分布計測システムの開発. 日本生体医工学学会関東支部若手研究者発表会, オンライン, 2021. 12. 11. 査読有
2. 西田享平, Song H, 月原弘之, 石島歩, 佐伯峻生, 島田啓太郎, 原一晃, 佐久間一郎, 小林英津子, 中川桂一. レーザーシート走査型微粒子3次元速度計測システムによる組織切開時の微粒子動態解析. 第31回 ライフサポート学会フロンティア講演会, オンライン, 2022. 3. 7-8. 査読有
3. 瀬川拓未, 石島歩, 佐伯峻生, 島田啓太郎, Song H, 山口哲志, 佐久間一郎, 横谷明德, 武次徹也, 小川美香子, 小林英津子, 中川桂一. サブ回折限界パブルダイナミクス解析のための超高速レーザー回折法の提案. 2021年度衝撃波シンポジウム, オンライン, 2022. 3. 9-11. 査読有

2. 受賞歴

1. 2022年3月「東京大学工学系研究科バイオエンジニアリング専攻 専攻長賞」

鄭世暲

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

鄭世暲・具度完, 日本カネミオイル事件の社会的構成:食中毒か食品公害か, 韓国環境社会学会誌, 2020; 24(1): 225-261. 査読有

【著書、編著】

訳書
鄭世暲. 망고와 수류탄(マンゴーと手榴弾: 生活史の理論). 두번째테제(secondthesis), 2021年

鈴木はるの

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Eltaybani S, Yasaka T, Fukui C, Inagaki A, Takaoka M, Suzuki H, Maruyama M, Yamamoto-Mitani N. Family-oriented interventions in long-term care residential settings: a scoping review protocol. JBI Evid Synth. 2021 Feb 9. doi: 10.111124/J-BIES-20-00289. Epub ahead of print. PMID: 33577233. 査読有

【著書、編著】

1. 鈴木はるの, 松本博成. 第3章 1)地域包括支援センターにおける認知症支援の実践. 近藤尚己. 五十嵐歩(編). 認知症plus地域共生社会. 日本看護協会出版会. 2022. pp37-47.
2. 鈴木はるの, 五十嵐歩. 第2章 1)当事者が参加する「認知症にやさしいまちづくり」—本人ミーティング—. 近藤尚己. 五十嵐歩(編). 認知症plus地域共生社会. 日本看護協会出版会. 2022. pp92-99.
3. 田中滋, 山本則子, 大森純子, 堀川尚子, 西山千秋, 五十嵐歩, 津野陽子, 野口麻衣子, 目麻里子, 稲垣安沙, 姉崎沙緒里, 増田有葉, 岩田友里, 鈴木はるの, 丸山美幸, 山田亨介. Social Community Nursing機能の定着要件の探求 報告書. 一般社団法人オレンジクロス. 2020.
4. 山本則子. 五十嵐歩. 野口麻衣子. 目麻里子. 福井千絵. Sameh Eltaybani. 稲垣安沙. 竹内由則. 北村智美. 高岡茉奈美. 松本博成. 矢坂泰介. 久貝波留菜. 沼田華子. 増田有葉. 篠原真純. 片山真登香. 鈴木はるの. 要介護高齢者等に対する看護介入による効果検証事業 報告書. 令和2年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業. 2021.

田中萌子

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 令和2年度 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 修士論文集
Moeko Tanaka. Sedentary behavior during pregnancy and its related factors: A cross-sectional observational study in Japan,

2021.1. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 春名めぐみ、田中萌子、中野恵子、西原菜帆、笹川恵美、米澤かおり、白井由利子、疋田直子、藤田愛. COVID-19禍での妊娠期から産後のコホート調査:J-PEACH Studyの取り組み. DOHaD研究 第10巻 第1号.2021 . 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Akiko NISHINO, Yoritaka HARAZONO, Moeko TANAKA, Kazunori YOSHIDA, Toko FUNAKI, Ryosuke TAKADA, Takenori NASU, Taketo TOBIMATSU. Role of Home-Modification Training for Care Managers. THE GERONTOLOGICAL SOCIETY OF AMERICA: GSA 2021 Annual Scientific Meeting. (Poster). NOVEMBER 10-14. PHOENIX, AZ (transitioning to an online format) 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 国内学会セミナー(WEB開催)
春名めぐみ、田中萌子、中野恵子、西原菜帆、藤田愛、柴田愛. 妊娠各期の至適体重増加とそれに関連する健康行動・心理社会的要因:コホート研究. 第32回日本DOHaD学会寺子屋-疫学セミナー、寺子屋、若手の会/ASTRO 合同研究会-.日本DOHaD学会分科会 寺子屋研究会事務局. 2020.10.3
国内シンポジウム
田中萌子. 実践型教育WINGS-GLAFSから:「コロナで学んだ高齢社会総合研究～スタジオ体験を通じて」.東京大学ジェロントロジー産学連携プロジェクトオンラインシンポジウム2022: ジェロントロジー総合研究が拓く新未来像. 東京, 2022.3.9. (活動報告予定)

ン, 2022年2月23日. 査読無

3. 田子健, 門倉悠真, 開一夫. 乳幼児のテレビ視聴における「観察者効果」～保護者の役割とカメラの影響～. シナぷしゅ研究会, 日本静岡県熱海, 2022年3月28日. 査読無

仲川 久礼亜

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Nakagawa K, Miyazaki Y, Mitsuishi N, Sakano M, Yokouchi T, Ishizaka K, Shiomi Y. Enhanced Thermopower in the Antiferromagnetic Phase of Mn₂-xCrSb. Journal of Physical Society of Japan, 2020; 89: 124601. 査読有
2. Hashizume M, Yokouchi T, Nakagawa K, Shiomi Y. Anisotropic magneto-Seebeck effect in antiferromagnetic semimetal FeGe₂. Physical Review B, 2021; 104: 115109. 査読有
3. Nakagawa K, Yokouchi T, Shiomi Y. Reconfigurable single-material Peltier effect using magnetic-phase junctions. Scientific Report, 2021; 11: 24216. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. ○仲川久礼亜, 宮崎優, 三石夏樹, 坂野昌人, 石坂香子, 塩見雄毅. Mn₂-xCrSb 反強磁性相における熱電効果の増大. 日本物理学会 第 76 回年次大会, 2021. 3. 12-15. 査読無
2. ○青野快, 仲川久礼亜, 宮崎優, 三石夏樹, 坂野昌人, 塩見雄毅, 石坂香子. 熱電特性の増大を伴うフェリ・反強磁性体Mn₂-xCrSbにおける電子構造の解明. 日本物理学会 第 76 回年次大会, 2021. 3. 12-15. 査読無
3. ○橋都みのり, 横内智行, 仲川久礼亜, 塩見雄毅. 反強磁性体 FeGe₂ における異磁性磁気ゼーベック効果. 日本物理学会 第 76 回年次大会, 2021. 3. 12-15. 査読無
4. ○仲川久礼亜, 横内智行, 塩見雄毅. Mn₂-xCrSbにおける磁気相転移を用いた単一物質ペルチェ効果の観測. 日本物理学会 2021年秋季大会, 2021. 9. 14-17. 査読無

2. 受賞歴

1. 2022年3月 「一高記念賞」(研究テーマ「磁気相転移を利用した新規熱電物性の観測」)

寺澤さやか

1. 論文等

1. 寺澤さやか. 不妊治療を受ける女性の職場経験. ソシオロギス, 2020; 44号: 123-140. 査読有

【著書、編著】

寺澤さやか. 第8章 不妊治療と仕事の両立の葛藤をめぐる計量テキスト分析. 松永伸太郎, 園田薫, 中川宗人(編著). 21世紀の産業・労働社会学. ナカニシヤ出版, 2022: ppxxx-xxx. (3月刊行予定)

田子健

1. 論文等

【国内学会・シンポジウムにおける発表】

1. 田子健, 岸山健, 陳姿因, 広瀬友紀, 幕内充. 幼児の描画課題におけるチャンキング傾向の考察. 電子通信情報学会思考と言語研究会, オンライン, 2021年9月18日. 査読無
2. 田子健, 岸山健, 陳姿因, 広瀬友紀, 幕内充. 言語・発達段階における描画の階層性～機械学習の特徴量を用いたパターン分析～. 共創的コミュニケーションのための言語科学第10回領域全体会議, オンライン

中野航綺

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 中野航綺. 「相談」の民間委託とその影響:地域包括支援センター・在宅介護支援センターの民間委託の経緯と特徴に注目して(中野航綺). 社会政策. 2022. 13(3). 査読有.

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 中野航綺. 健康で文化的な生活とは:第4回民医連調査と全生連調査

の自由回答について. 民医連医療. 2021. 592. pp.44-45. 査読無.

【著書、編著】

1. 福祉図書文献学会. 伝えたい福祉図書文献 : 学会名称変更20周年記念誌. 学術研究出版, 2021, pp.235-240.
2. 中野航綺. 自由回答にみる生活の現実: I.健康で文化的な生活を構成する要素とその阻害要因一調査の自由回答の分析から. 浜岡政好, 唐鎌尚義, 河合克義(編). 「健康で文化的な生活」をすべての人に一憲法第25条の探求一. 自治体研究社. 2016.: pp.78-

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Yoshioka D., Kogami H., Kang S., Yoshizaki R., Sakurai Y., Nakano K., Wu J., Fujisaki-Sueda-Sakai M., Sugawara I., Miura M., Yabu K., Ito K., & Ifukube T., “Evaluation of IoT-Setting Method Among Senior Citizens in Japan.” 24th International Conference on Human-Computer Interaction, Online, 2022. 07. 26, Oral presentation, 査読有り
2. Kang S., Yoshizaki R., Kogami H., Nakano K., Sakurai Y., Yoshioka D., Wu J., Fujisaki-Sueda-Sakai M., Sugawara I., Miura T., Yabu K., Ito K., Akiyama H., Otsuki T., Ifukube T. Preliminary evaluation of an IoT setting method for universal design. International Conference on Design and Concurrent Engineering 2021 & Manufacturing Systems Conference 2021, Virtual. 2021. 9. 3-4. 査読有.
3. Kang S.I., Ito K., Yoshizaki R., Kogami H., Nakano K., Yoshioka D., Sakurai Y., Fujisaki-Sueda-Sakai M., Sugawara I., Miura T., Yabu K., Ifukube T. Enriching IoT Web Application Experience by Integrating Containerized Edge Resource. 2022 IEEE 4th Global Conference on Life Sciences and Technologies, Osaka, Japan. 2022. 3. 7-9. 査読有.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 中野航綺, 吉崎れいな, 湖上碩樹, 小川景司, 吉岡大介, カンスイン, 櫻井友理希, 藤崎万裕, 伊藤研一郎, 菅原育子. 高齢者主体の地域活動におけるIT技術導入・普及過程の分析. 第63回日本老年社会科学会, 2021. 6.12-13. 査読有.
2. 中野航綺. 社会福祉士制度を巡る論争: 小野-京極論争に注目して. 第23回福祉図書文献学会. 2021.9.11. 査読無.
3. 中野航綺. 「地域福祉計画」策定過程におけるアクター像はどのように捉えられてきたか. 第143回社会政策学会. 2021.10.16. 査読無.
4. 宮地俊介, 中野航綺. コロナ禍における地域活動はいかにして持続可能か-高齢者を中心とする体操グループを対象として. 第94回日本社会学会. 2021.11.13-14. 査読無.

2. 受賞歴

2021年11月 公益財団法人 生協総合研究所「2021年度生協総研賞・第19回助成事業」(中野航綺 「地域福祉計画策定過程における住民参加の実態調査:「参加」のバリエーションとその背景に着目して」)

中山莉子

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 山下真理・岡村毅・宇良千秋・杉山美香・中山莉子・宮前史子・小川まどか・稲垣宏樹・枝広あや子・多賀努・津田修治・井藤佳恵・粟田圭一. 認知機能低下を抱えた地域在住高齢者のインフォーマル・サポートと精神的健康に関する質的研究 認知症ケア学会誌, 2022;20(4):000-000. 査読有
2. Nakayama R, Sugiyama M, Ura C, Taga T, Tsuda S, Yamashita M, Miyamae F, Edahiro A, Inagaki H, Ogawa M, Okamura T, Awata S. The relationship between cognitive decline and well-being: investigation in older community-dwelling people with moderately impaired cognition. Psychogeriatrics, 2021;21(5):841-843. doi:10.1111/psyg.12742 査読有
3. Okamura T., Ura C., Sugiyama M, Miyamae F, Edahiro, A, Taga, T., Tsuda, S., Nakayama R, Ito K, Awata S. Factors associated with inability to attend a follow-up assessment, mortality, and institutionalization among community-dwelling older people with cognitive impairment during a 5-year period: evidence from community-based participatory research. Psychogeriatrics, Early view; doi.org/10.1111/psyg.12816 査読有
4. 高橋美保・馬場絢子・中山莉子. マインドフルネスが高齢者のwell-beingに及ぼす影響:マインドフルネスを導入した介入プログラムの試み マインドフルネス研究, 2021;6(1):9-21. 査読有
5. Edahiro A, Okamura T, Motohashi Y, Takahashi C, Sugiyama M, Miyamae F, Taga T, Ura C, Nakayama R, Yamashita M, Awata S: Oral health as an opportunity to support isolated people with dementia: useful information during coronavirus disease 2019 pandemic. Psychogeriatrics. 2021;21(1):140-141. doi: 10.1111/psyg.12621. 査読有
6. Ura C, Okamura T, Sugiyama M, Miyamae F, Yamashita M, Nakayama R,...Awata S . Living on the edge of the community: Factors associated with discontinuation of community living among people with cognitive impairment. BMC Geriatrics 21, 2021; 131: https://doi.org/10.1186/s12877-021-02084-2. 査読有
7. 中山莉子・佐藤浩. 高齢者の社会参加を促すサークル活動の映像分析-習字サークルにおける「会話に入りにくい参加者」に着目して- ライフ・レジリエンス学, 2021;1:1-9. 査読無
8. 中山莉子・加藤明日香・和智遥香・野村佳申・隅田玲・高橋美保. コロナ(COVID-19)禍による大学講義のオンライン化にともない、学生間の雑談様式はどのように変化したか —— 講義前後のやりとりに着目して —— 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 2021;44:65-73. 査読無

【著書、編著】

中山莉子. 変化の5つの要素 高橋美保 (監訳) マインドフルネス認知療法を教えるということ 実践の体現と瞑想的対話 (インクワイアリ) 北大路書房, 2021. (Woods, S. L., Rockman, P., & Collins, E. (2019). Mindfulness-Based Cognitive Therapy—Embodied Presence and Inquiry in Practice. Oakland, CA: New Harbinger Publications, Inc.)

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 中山莉子・佐藤浩・秋月優里・坂井愛理・荻野亮吾・後藤純. 高齢者サークルにおける会話が生じる過程の映像分析——「当てどころのない発話」を中心に—— 老年社会学第62回大会. 誌上発表, 2020. 査読有
2. 岡村毅, 宇良千秋, 杉山美香, 中山莉子, 山下真里, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 栗田圭一. 大都市団地で認知機能低下と共に暮らす高齢者の体験世界を知る 本人の語りに基づいた、本人の生活世界の探究. 認知症ケア学会第21回大会, 誌上発表, 2020. 査読有
3. 山下真里, 岡村毅, 宇良千秋, 杉山美香, 中山莉子, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 栗田圭一. 大都市団地で認知機能低下と共に暮らす高齢者の体験世界を知る 地域生活の体験と主観的QOLの関連. 認知症ケア学会第21回大会, 誌上発表, 2020. 査読有
4. 宇良千秋, 岡村毅, 杉山美香, 中山莉子, 山下真里, 宮前史子, 小川まどか, 稲垣宏樹, 枝広あや子, 栗田圭一. 大都市団地で認知機能低下と共に暮らす高齢者の体験世界を知る 生活拠点の変化と属性の違いについて. 認知症ケア学会第21回大会, 誌上発表, 2020. 査読有
5. 中山莉子・多賀努・岡村毅・杉山美香・宇良千秋・山下真里・宮前史子・枝広あや子・栗田圭一. 地域拠点において認知症とともに生きる 独居高齢者の安心感を醸成するには? 第22回日本認知症ケア学会, オンライン, 2021.6.5.-10.5. 査読有
6. 中山莉子. 認知症とともに生きる高齢者のコミュニケーション体験 — 認知症をもつ本人の安心感はいかに形成されるのか? — 第三回日本老年臨床心理学会, 東京, 2021.3.20-3.21. 査読有

野沢恭介

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Iida M, Watanabe K, Imamura K, Sakuraya A, Asaoka H, Sato N, Nozawa K, Kawakami N. (2021). Development and validation of the Japanese version of the team job crafting scale for nurses. *Research in Nursing & Health*, 44(2), 329-343. 査読有
2. Komase Y, Watanabe K, Hori D, Nozawa K, Hidaka Y, Iida M, Imamura K, Kawakami N. (2021). Effects of gratitude intervention on mental health and well-being among workers: A systematic review. *Journal of Occupational Health*, 63(1), e12290. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Nozawa K, Imamura K, Watanabe K, Sawada, U, Asaoka H, Kotake R, Morita Y, Miyamoto Y. Factorial validity of the Japanese version of the Revised Publication Pressure Questionnaire (PPQr). 21st WPA World Congress of Psychiatry 2021 Oct 18-21 Virtual Congress. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 駒瀬優, 日高結衣, 野沢恭介, 渡辺和広, 川上憲人. 労働者を対象とした感謝法の効果: 無作為化比較試験の系統的レビュー. 第93回産業衛生学会 2021年5月15日 北海道(オンライン).
2. 高野歩, 平岩千明, 及川江利奈, 富川明子, 野沢恭介. Substance Use Stigma Mechanism Scale日本語版の信頼性・妥当性の検討. 第31

回日本精神保健看護学会学術集会 2021.06.06 オンライン

3. 野沢恭介, 平岩千明, 及川江利奈, 富川明子, 高野歩. Self-Efficacy in Seeking Mental Health Care 日本語版の因子的妥当性の検討. 第31回日本精神保健看護学会学術集会 2021.06.06 オンライン
4. 高野歩, 大野昂紀, 野沢恭介, 篠崎智大. 飲酒状況セルフモニタリングアプリの有効性検証: ランダム化比較試験プロトコル. 第56回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 2021.12.19 三重, オンライン
5. 高野歩, 大野昂紀, 野沢恭介, 松本俊彦, 松下幸生, 湯本洋介, 小貫真希, 妙園香苗, 佐藤牧人, 瀬々潤. モバイルデバイスを用いたアルコール・薬物使用リアルタイムデータ収集と介入プログラムの開発. 第56回日本アルコール・アディクション医学会学術総会 2021.12.18 三重, オンライン

原 蘭 陸 正

1. 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. Harazono Y, Kasahara M. Toward lifting human genome annotation. *MBSJ*, 2021. 査読無

日 隈 脩 一 郎

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 日隈脩一郎. 行為から陶冶へ — 吉田熊次の学問構想に関する一考察 —. *研究室紀要*, 2021; (47): 159-169. 査読有

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. Kazembe N, Wang C, Kim T, Higuma S, Kim H, Yang Y, Gandy SC, Ogino R, Takase M. Effects of the COVID-19 Pandemic on Activities of Toyoshikidai's Community Space. *Life Resilience Research*, 2021; 1:1-30. 査読無
2. 日隈脩一郎. 〈書評キャンパス〉香月孝史著『乃木坂46のドラマトゥルギー』. *週刊読書人*, 2020; (3350): 14. 査読無
3. 日隈脩一郎. 「心を縦に考へる」——初期倉橋惣三の自然主義と保育学構想. *東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 若手研究者育成プロジェクト採択者ワーキングペーパー*, 2021; (1): 44-57. 査読無
4. 谷川みらい, 笠松和也, 上西晴也, 辻本侑生, 日隈脩一郎, 児玉光栄. 水道問題と民主主義を考える——岸本聡子『水道、再び公営化! 欧州・水の闘いから日本が学ぶこと』を題材に. *人文×社会*, 2021; 1(3): 1-3. 査読無
5. 日隈脩一郎. 移動の制限と「疎開」. もうひとつの—高: 戦時下の—高留學生課長・藤木邦彦と留學生たち パンフレット, 2022: 14-16. 査読無
6. 日隈脩一郎. 拝啓 藤木先生——戦争のなかの日常. もうひとつの—高: 戦時下の—高留學生課長・藤木邦彦と留學生たち パンフレット, 2022: 17-18. 査読無

【著書、編著】

1. 日隈脩一郎. 香月孝史著『乃木坂46のドラマトゥルギー: 演じる身体 / フィクション / 静かな成熟』. 大学生と「週刊読書人」編集部(編). 書評キャンパスat読書人. 読書人, 2021: pp40-41.

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Kazembe N, Wang C, Kim T, Higuma S, Kim H, Yang Y, Gandy SC, Ogino R, Takase M. Effects of the COVID-19 Pandemic on Activities of Toyoshikidai's Community Space. Life Resilience Research, Impact of COVID-19 pandemic on senior-to-senior social engagement activities at a community space in Japan. GSA 2020 Annual Scientific Meeting Online, U.S. 2020. 11. 6. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 宇野瑞木, 高原智史, 宋舒揚, 日隈脩一郎, 横山雄大. 新出資料「藤木文書」の紹介——戦時下の高留学生課長・藤木邦彦と留学生たち. 松本市立博物館分館 旧制高等学校記念館. 第25回夏期教育セミナー, オンライン, 2021. 8. 27-31. 査読無
2. 日隈脩一郎. 賀川豊彦のベルクソン: 「開かれた社会」概念を手がかりに. 第33回賀川豊彦学会大会, オンライン, 2021. 10. 23. 査読無
3. 日隈脩一郎. 城戸幡太郎の教育学批判——児童研究所創設を手がかりとして. 幼児教育史学会 第17回大会, オンライン, 2021. 12. 4. 査読無
4. 日隈脩一郎. 2010年代日本におけるメディアの上の哲学——サイエンスコミュニケーションの再検討のために. 科学技術社会論学会 第20回年次研究大会, オンライン, 2021. 12. 5. 査読有

前田一步

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. 前田一步. 街のなかの子育てと夫婦——団地居住者生活実態調査(1965)の二次分析. 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブセンター リサーチペーパーシリーズ. 2020年12月; 75号: pp.73-97. 査読無
2. 前田一步. 社会問題史としての都市公園史を描く——計量テキスト分析による都市公園史研究の視点提起. 都市公園. 2021年12月; 233号: pp.54-57. 査読有

【著書、編著】

1. 前田一步. 新聞記事にみる近代東京・都市公園の話題変遷——長期・記事見出しデータへのトピックモデルの適用. 左古輝人(編). テキスト計量の最前線——データ時代の社会知を拓く. ひつじ書房, 2021年: pp.71-93.
2. 前田一步. 第5章 メディアとクレイム. ジョエル・ベスト(著), 赤川学(監訳). 社会問題とは何か——なぜ、どのようにして生じ、なくなるのか. 筑摩書房, 2020年: pp. 143-178.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 前田一步. 都市公園における〈遊び〉の問題化: 1920-30年代東京における児童指導員事業に着目して. 日本社会学会第93回大会. 松山, 2020.10.31. 査読有

2. 前田一步. 父親の育児参加をめぐる生活時間調査の二次分析: テキストマイニングを用いた自由記述回答の再コーディングを通して. ソーシャル・コンピューテーション学会 第12回研究例会. 東京, 2020.12.5. 査読無
3. 前田一步. 戦前期東京・都市公園の「浮浪者」対策: 「社会」を語りはじめる造園家とその公園管理諸実践の分析. 日本社会学会第94回大会. 東京, 2021.11.13. 査読有
4. 前田一步. 家族をみる窓としての児童公園: 高度成長期の団地居住者生活時間データの分析から. 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブセンター 課題公募型二次分析研究「戦後福祉国家成立期の福祉・教育・生活をめぐる調査データの二次分析」成果報告会, 東京, 2022.3.18. 査読無

2. 受賞歴

1. 2021年7月. 第56回東京都公園協会賞 論文の部 奨励賞

前田啓介

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Maeda K, Habara M, Kawaguchi M, Matsumoto H, Hanaki S, Masaki T, Sato Y, Matsuyama H, Kunieda K, Nakagawa H, Shimada M. FKBP51 and FKBP52 regulate androgen receptor dimerization and proliferation in prostate cancer cells. Mol oncol. 2021; Epub ahead of print. 査読有
2. Hanaki S, Habara M, Masaki T, Maeda K, Sato Y, Nakanishi M, Shimada M. PP1 regulatory subunit NIPP1 regulates transcription of E2F1 target genes following DNA damage. Cancer Sci. 2021 ;112(7):2739-2752. 査読有
3. Masaki T, Habara M, Sato Y, Goshima T, Maeda K, Hanaki S, Shimada, M. Calcineurin regulates the stability and activity of estrogen receptor α . Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America, 2021; 118(44), e2114258118. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 前田啓介, 花木駿介, 正木貴弘, 佐藤悠紀, 羽原誠, 島田緑. プロリン異性化酵素によるがん細胞の増殖制御機構の解明 第164回日本獣医学会学術集会, オンライン, 2021, 9. 7-13. 査読有
2. 前田啓介, 安藝翔, 土田里香, 関元昭, 大澤毅. 低pH腫瘍微小環境におけるがん抑制因子の同定 第80回日本癌学会学術総会, 神奈川, 2021, 9.29-10.1 査読有
3. 花木駿介, 羽原誠, 正木貴弘, 前田啓介, 佐藤悠紀, 島田緑. PP1脱リン酸化酵素を介した転写調節機構の解明 第10回日本プロテインホスファターゼ研究会学術集会, オンライン, 2022, 1. 21-22. 査読なし
4. 羽原誠, 正木貴弘, 佐藤悠紀, 前田啓介, 花木駿介, 島田緑. カルシニューリンはエストロゲン受容体 α の安定性および活性を制御する 第10回日本プロテインホスファターゼ研究会学術集会, オンライン, 2022, 1.21-22 査読なし

2. 受賞歴

- 2021年10月「第80回日本癌学会学術総会JCA若手研究者ポスター賞」(前田啓介, 安藝翔, 土田里香, 関元昭, 大澤毅. 低pH腫瘍微小環境におけるがん抑制因子の同定)

増田桃佳

1. 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 増田桃佳, 水野佑紀, シンディ・ラーマン・アイシャー, 岩本晃明, 山崎一恭, 内田将央, 猪鼻達仁, 仮屋ふみ子, 小西祥子. 精子ミトコンドリアDNAコピー数と精液所見の関連: IITEFプロジェクト. 第92回日本衛生学会学術総会, 西宮, 2022. 3. 21-23. 査読無
- 増田桃佳, 水野佑紀, 後藤千穂, 吉永淳, 小西祥子, 梅崎昌裕, 今井秀樹. 日本の女子大生における食事性炎症指数とテロメア長の関連. 第92回日本衛生学会学術総会, 西宮, 2022. 3. 21-23. 査読無

松浦慎太郎

1. 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Shintaro M. How to Explain the Mechanism of Metalinguistic Dispute. Proceedings of the Eighteenth International Workshop of Logic and Engineering of Natural Language Semantics 18 (LENLS18), 2021; 17-30. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Shintaro M. How to Explain the Mechanism of Metalinguistic Dispute. Logic and Engineering of Natural Language Semantics 18 (LENLS18), Online, 2021. 11. 13-15. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 松浦慎太郎. メタ言語的論争とスタルネイカーの主張理論. 2021年度哲学若手研究者フォーラム, オンライン, 2021. 9. 11-12. 査読無

松岡洋子

1. 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Sato K, Sakata R, Murayama C, Yamaguchi M, Matsuoka Y, Kondo N. Changes in work and life patterns associated with depressive symptoms during the COVID-19 pandemic: an observational study of health app (CALO mama) users. Occupational & Environmental Medicine, 2021 Sep; 78(9): 632-637. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

- Matsuoka Y, Zhang J, Lyu W, Aoyagi K, Takase M, Ogino R, Goto J. The Association of Early-Morning Eating Habit with High Nutrient Intake by Older Japanese Adults Living Alone. GSA 2020 Annual Scientific Meeting Online, Philadelphia, The United States, 2020. 10. 26-30. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

- 松岡洋子, 長谷田真帆, 金森万里子, 佐藤豪竜, 雨宮愛理, 尾島俊之, 高木大資, 花里真道, 近藤尚己. 熊本地震後の転居がグループ参加の変化を通じて高齢者の精神的健康に与える影響: 住宅形態別の比較. 第32回日本疫学会学術総会, 千葉県浦安市, 2022. 1. 26-28. 査読有

松本博成

1. 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

- Matsumoto H, Igarashi A, Hagiwara Y, Yamamoto-Mitani N. Relational Design for Dementia and Job Significance (ReDeSign): Study protocol for a randomized controlled trial of an online dementia training for retail workers. Contemporary Clinical Trials Communications, 2022; 26: 100896. 査読有.
- Matsumoto H, Maeda A, Igarashi A, Weller C, Yamamoto-Mitani N. Dementia education and training for the general public: a scoping review. Gerontology & Geriatrics Education, 2021; 1-31. 査読有.
- Matsumoto H, Kawagoe M, Hotta S. Older Adults Used Fewer Home Care Services during the COVID-19 Pandemic: Findings from a Secondary Analysis of an Urgent Survey in Japan. Annals of Geriatric Medicine and Research, 2021; 25(4), 286. 査読有.
- Naruse T, Tuckett A. G, Matsumoto H, & Yamamoto-Mitani N. Measurement Development for Japanese Clients' Experiences during Adult Day Care Service Use (The J-AdaCa Tool). Healthcare, 2020; 8(4), 363. 査読有.
- Matsumoto H, Kageyama M, Yamamoto-Mitani N, & Nagata S. The use of a public space in a public housing complex by senior citizens: A qualitative study. Journal of Aging and Environment, 2020; 35(2), 107-124. 査読有.
- Matsumoto H, Igarashi A, Suzuki M, & Yamamoto-Mitani N. Dementia education is the first step for cooperation: An observational study of the cooperation between convenience stores and community general support centers. Geriatrics & Gerontology International, 2020; 20(10), 956-960. 査読有.
- Igarashi A, Matsumoto H, Takaoka M, Kugai H, Suzuki M, & Yamamoto-Mitani N. Educational program for promoting collaboration between community care professionals and convenience stores. Journal of Applied Gerontology, 2020; 39(7), 760-769. 査読有.

丸山美幸

1. 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Eltaybani S, Yasaka T, Fukui C, Inagaki A, Takaoka M, Suzuki H, Maruyama M, Yamamoto-Mitani N. Family-oriented interventions in long-term care residential settings: a scoping review protocol. JBI Evid Synth. 2021; doi: 10.11124/JBIES-20-00289. Epub ahead of print. PMID: 33577233. 査読有

【その他】

1. 田中滋, 山本則子, 大森純子, 堀川尚子, 西山千秋, 五十嵐歩, 津野陽子, 野口麻衣子, 目麻里子, 稲垣安沙, 姉崎沙緒里, 増田有葉, 岩田友里, 鈴木はるの, 丸山美幸, 山田亨介. Social Community Nursing機能の定着要件の探求. 2020. 査読無

山下港

1. 論文等

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. Yamashita M, Hattori K, Chen X, Goda Y, Ota S. 3D Imaging Flow Cytometry for Adherent Cell Retaining Adherent State. 第一回システム生物医学研究会, 東京, 2021. 12. 17. 査読無

楊映雪

1. 論文等

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 楊映雪, 劉夢思, 詹瞻, 倪琳林. 終身教育分科会報告: 終身教育視角下探索学習の本質—以中日两国実践為例. 中日教育論壇, 2022.(in press)
2. 楊映雪, 劉夢思, 詹瞻, 倪琳林. 10周年記念シンポジウム報告: 人生100年時代に向けた教育—中日教育交流の回顧と展望. アジア教育文化ジャーナル, 2022.3(4):110-120.
3. 鈴木繁聡, 堀本暁洋, 松尾有美, 末光翔, 林忠賢, 野村一貴, 金亨善, 松本奈々子, 楊映雪. 2020年社会教育研究の動向. 社会教育学研究, 2021(57):104-112.

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. [accepted]Yang Y. The Relationship between School Education and Community Education in China from the Perspective of Lifelong Learning. The Comparative Education Society of Hong Kong (CESHK) 2022 Spring Annual Conference, Online, 2022.3.18-19. 査読有
2. Yang Y. What is social participation? Rethinking the social role of the elderly in knowledge-based society from a perspective view of lifelong learning in Japan. WERA 2021 Virtual Focal Meeting Participant. 2021.7.7-9. Spain. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 楊映雪, 劉夢思, 詹瞻, 倪琳林. ラウンドテーブル・生涯教育:生涯にわたる学びのあり方. 中日教育研究学会10周年記念シンポジウム, 2021.9.26.
2. 孫輔卿, 三浦貴大, 角川由香, 藪謙一郎, 田中友規, 呂偉達, 金東律, 楊映雪, 張俊華, 佐藤雄太, 榊原拓磨, 徳丸剛, 池田一智, 飯島勝矢. 地域住民同士の双方向オンライン型フレイルチェック開発と地域実装: 対面とオンラインの持続的フレイル予防システムを目指して. 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2021.

横峰真琳

1. 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. Fukuda Y, Yokomine M, Kuroda D, Tsumoto K, Morimoto J, Sando S. Peptoid-based reprogrammable template for cell-permeable inhibitors of protein-protein interactions. Chemical Science, 2021; 12(40) :13292-13300. 査読有
2. Yokomine M, Morimoto J, Fukuda Y, Shiratori Y, Kuroda D, Ueda T, Takeuchi K, Tsumoto K, Sando S. Oligo(N-methylalanine) as a Peptide-Based Molecular Scaffold with a Minimal Structure and High Density of Functionalizable Sites. Angewandte Chemie International Edition, 2022; DOI:10.1002/anie.202200119. 査読有

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 横峰真琳, 福田泰啓, 黒田大祐, 津本浩平, 森本淳平, 山東信介. N置換ペプチドを足場とするMDM2リガンドの設計. 日本化学会第101春季年会, オンライン 2021. 3. 19. 査読無
2. 横峰真琳, 黒田大祐, 上田卓見, 竹内恒, 津本浩平, 森本淳平, 山東信介. Oligo(N-methylalanine) as a molecular scaffold for designing protein ligands. 第58回ペプチド討論会. 日本ペプチド学会. オンライン. 2021. 10. 20. 査読無

吉岡大介

1. 論文等

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 吉岡大介, 中村貴紀, 武川睦寛, “ストレス顆粒形成による生命機能制御と疾患”, 廣瀬哲郎, 加藤昌人, 中川真一 (編), 実験医学増刊 相分離 -メカニズムと疾患-, 2021:39(10), pp93-101. 査読無

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Yoshioka D., Kogami H., Kang S., Yoshizaki R., Sakurai Y., Nakano K., Wu J., Fujisaki-Sueda-Sakai M., Sugawara I., Miura T., Yabu K., Ito K., & Ifukube T., “Evaluation of IoT-Setting Method Among Senior Citizens in Japan.” 24th International Conference on Human-Computer Interaction, Online, 2022. 07. 26, Oral presentation, 査読有

吉田和憲

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Yoshida K, An Q, Hamada H, Yamakawa H, Tamura Y, Yamashita A, Asama H. Artificial neural network that modifies muscle activity in sit-to-stand motion using sensory input. *Advanced Robotics* 2021; 35: 858–66. 査読有
2. Kogami H, An Q, Yang N, Wang R, Yoshida K, Hamada H, Yamakawa H, Tamura Y, Shimoda S, Yamasaki H, Yokoyama M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Analysis of muscle synergy and kinematics in sit-to-stand motion of hemiplegic patients in subacute period. *Advanced Robotics* 2021; 35: 867–77. 査読有
3. An Q, Yang N, Yamakawa H, Kogami H, Yoshida K, Wang R, Yamashita A, Asama H, Ishiguro S, Shimoda S, Yamasaki H, Yokoyama M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Kurazume R. Classification of Motor Impairments of Post-Stroke Patients Based on Force Applied to a Handrail. *IEEE Transactions on Neural Systems and Rehabilitation Engineering* 2021; 29: 2399–406. 査読有

【国際学会・シンポジウムにおける発表】

1. Wang R, An Q, Yang N, Kogami H, Yoshida K, Hamada H, Shimoda S, Yamasaki H, Sonoo M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Muscle Tension Analysis in Stroke Patient Sit-to-Stand Motion by Joint Torque-Based Normalization. 5th International Conference on NeuroRehabilitation (ICNR2020), Virtual format, 2020. 10. 13–16. 査読有
2. Yoshida K, Harazono Y, Funaki T, Nishino A. “Care Managers Have Few Options for Home Modification Because They Are Not Specified in Architecture,” *Innovation in Aging*, 2020; 4 (Supplement_1): 198, in GSA2020 Annual Scientific Meeting, Online, 2020. 11. 4–7. 査読有
3. Yoshida K, An Q, Yamakawa H, Tamura Y, Yamashita A, Asama H. Effect of Tilted Ground on Muscle Activity in Human Sit-to-Stand Motion: Preliminary Result. 16th international conference on Intelligent Autonomous Systems (IAS-16), Singapore (Online): 2021, p. 300–8, 2021. 7. 22–25. 査読有
4. Nishino A, Harazono Y, Tanaka M, Yoshida K, Funaki T, Takada R, Nasu T, Tobimatsu T. Role of Home-Modification Training for Care Managers. *Innovation in Aging* 2021; 5: 783–783, in GSA2021 Annual Scientific Meeting, Online, 2021. 11. 10–13.

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. An Q, 山川博司, 湖上碩樹, 吉田和憲, 王若曦, 山下淳, 浅間一, 石黒周, 下田真吾, 楊濤嘉, 山崎弘嗣, 園尾萌香, Alnajjar F, 服部憲明, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗宏範, 宮井一郎, 倉爪亮. 片麻痺患者の起立動作中の手すりにかかる力を用いた運動障害の度合の分類. 第38回日本ロボット学会学術講演会予稿集, 2020; 1–3, Online, 2020. 10. 9–11. 査読無
2. 湖上碩樹, 安琪, 吉田和憲, 王若曦, 山川博司, 楊濤嘉, 山崎弘嗣, Alnajjar F, 園尾萌香, 下田真吾, 服部憲明, 高橋幸治, 藤井崇典, 乙宗

宏範, 宮井一郎, 田村雄介, 山下淳, 浅間一. リハビリテーションにおける片麻痺患者の起立動作の改善過程の解明 ～滑らかさと安定性による評価～. 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2020 講演論文集, 2020; 570–3, Online, 2020. 11. 15–17.

2. 受賞歴

1. 2020年10月「ICNR2020 Best Paper Award」(Wang R, An Q, Yang N, Kogami H, Yoshida K, Hamada H, Shimoda S, Yamasaki H, Sonoo M, Alnajjar F, Hattori N, Takahashi K, Fujii T, Otomune H, Miyai I, Yamashita A, Asama H. Muscle Tension Analysis in Stroke Patient Sit-to-Stand Motion by Joint Torque-Based Normalization.)

呂偉達

1. 論文等

【学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文】

1. Weida Lyu, Huijuan Jia, Chuanzong Deng, Kenji Saito, Seigo Yamada, Hisanori Kato. “Zeolite-containing mixture alleviates microbial in dextran sodium sulphate induced colitis in mice.” *Food Sci. Nutr.* (2020)

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 呂偉達, 田中友規, 徳丸剛, 森千夏, 田代紫織, 飯島勝矢. 行動変容ステージと心身機能低下リスクの関連性について: 食事、運動、社会参加と口腔ケアの4つの面からの横断的分析. 日本老年医学会, 2020.
2. 呂偉達, 田中友規, 孫輔卿, 飯島勝矢. 地域在住高齢者におけるフレイル新規発症の検討～食習慣や身体活動、人とのつながりとの関連性～第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2020.
3. 高橋競, 孫輔卿, 田中友規, 藤崎万裕, 吉澤裕世, 呂偉達, 飯島勝矢. フレイルサポーターによる地域活動に関する混合研究. 第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2020.
4. 孫輔卿, 秋下雅弘, 豊島弘一, 田中友規, スタッヴォラヴットアンヤポーン, 呂偉達, 飯島勝矢. 食事の炎症誘導能がサルコペニア有病率および血中hsCRP値に及ぼす影響-食事性炎症指数を用いた検討. 第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2020.
5. 田中友規, 孫輔卿, 呂偉達, 飯島勝矢. COVID-19パンデミックに伴う外出自粛要請とフレイル新規発症の関連-柏スタディー第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2020.
6. しての社会的要因の探索と性差の検討: 一柏スタディー第14回日本性差医学・医療学会学術集会, 2020.
7. 孫輔卿, 三浦貴大, 角川由香, 藪謙一郎, 田中友規, 呂偉達, 金東律, 楊映雪, 張俊華, 佐藤雄太, 榎原拓磨, 徳丸剛, 池田一智, 飯島勝矢. 地域住民同士の双方向オンライン型フレイルチェック開発と地域実装-対面とオンラインの持続的フレイル予防システムを目指して-第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会, 2021.
8. 呂偉達, 田中友規, 孫輔卿, 飯島勝矢. 地域在住高齢者のフレイル・サルコペニア有病率との横断的検討-食生活・身体活動・社会性の3つの重複の有効性-第28回日本未病学会学術総会, 2021.

林忠賢

1. 論文等

【学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文】

1. 林忠賢. 芸術教育プログラムの社会的転移効果についての考察及び可能性. 生涯学習基盤経営研究; 2022年: 第46号. 印刷中. 査読有
2. 林忠賢. 大正期・戦前の図画教育における鑑賞教育の展開: 全国訓導協議会の記録『教育研究』増刊号の検討から. 2021年度東京大学大学院教育学研究科紀要; 第61巻: 2022年. 印刷中. 査読無
3. 林忠賢. 台湾の生涯学習・この一年—「学習社会白書 2.0」からみる台湾が目指す生涯学習社会—. 東アジア社会教育研究; 2021年: 第26号. pp. 180-188. 査読無

【学術雑誌等又は商業誌における解説、総説】

1. 鈴木繁聡, 堀本暁洋, 松尾有美, 末光翔, 林忠賢, 野村一貴, 金亨善, 松本奈々子, 楊映雪. 2020年社会教育研究の動向. 社会教育学研究; 2021年: 第57巻. pp. 104-112. 査読無

【国内学会・シンポジウム等における発表】

1. 林忠賢. 大正時期・戦前の図画教育における鑑賞教育の展開—全国訓導協議会の記録『教育研究』増刊号の検討から—. 第60回 大学美術教育学会山形大会, 山形, 2021. 9. 25-26. 査読無